

会 議 録

☐ 全部記録 ☒ 要点記録

1 会 議 名	第 5 回 姫路獨協大学在り方審議会
2 開催日時	令和 4 年 2 月 19 日（土）14 時～15 時 40 分
3 開催場所	アクリエひめじ 4 階 会議室 4 0 9
4 出席者又は欠席者名	〔出席者〕 姫路獨協大学在り方審議会委員 12 人 兵庫県中播磨県民局 1 人 〔事務局〕 政策局高等教育・地方創生担当理事、高等教育室長、高等教育室係長 2 人
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴人 18 人
6 議題又は案件及び結論等	1 開 会 2 挨 拶 3 議 事 答申案審議 4 その他 5 答 申 6 閉 会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

事務局	1 開 会 第 5 回姫路獨協大学在り方審議会を開会する。
理事	2 挨 拶 (政策局高等教育・地方創生担当理事挨拶) 本日はご多用の中、また土曜日の天候の悪い中、第 5 回姫路獨協大学在り方審議会にご出席いただき感謝申し上げます。 皆様ご承知の通り、この度、兵庫県においても、新型コロナウイルス感染症に係る「まん延防止等重点措置」の期間が来月の 6 日まで延長されることになり、コロナを取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いている。委員の皆様には、「緊急事態宣言」並びに「まん延防止等重点措置」が発令されている中においても、感染対策に協力いただきながら参加いただき、姫路獨協大学の在り方について終始熱心にご議論いただいたこと、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。 本日は最終回として、答申案についてご審議いただく。限られた時間ではあるが、委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。
事務局	3 議 事 「答申書（案）」について説明
委員	審議会の運営についてお聞きする。3ヶ月前の第3回審議会の議事録がホームページに掲載されたのは昨日であり、第4回審議会の議事録は、未だ各委員に配布されていない。第4回審議会を欠席した委員は、どんな議論をしたのか知らされていないにもかかわらず答申書（案）ができるということは、後先が逆ではないか。
事務局	第3回審議会の議事録については、事務の遅れがあり、昨日ホームページに掲載した。第4回の議事録については作成中であるが、欠席者には議論の内容について説明している。この審議会自体を公開で開催しており、議事の内容についてはホームページ等にも掲載して随時公表していく。
委員	「答申書（案）」について、3ページの11行目に「より優れた大学運営力と理念を有する他の学校法人」とあるが、獨協学園が、学校法人として比較されているような印象を受けるので、「より」は削除した方が良いように思う。

副会長	確かに、「より」という言葉は、本審議会が出す答申書に使うべきではないと考える。
会長	「より」を削除するということに、異議はあるか。 (異議なし)
会長	では、「より」を削除する。それ以外の点で指摘等はあるか。
委員	3 ページの 16、17 行目について、第 4 回審議会でも強調した内容が入っていない。17 行目「求めます」のところを「また、譲渡に際しては必要な情報公開と公正性の確保に努めていくよう求めます」と修正したい。また、17 行目を修正すると「譲渡」が 2 回出てくることになるので、15 行目の「又は譲渡」は削除する。
会長	今の指摘に関しては、事前説明時の答申書（案）から変更され、16 行目に「誠実に」という表現が加えられている。
委員	「必要な情報公開」と書くことで、今後の事業譲渡に影響が出てくる可能性も考えられる。例えば企業の M&A（合併と買収）では、当初からの情報公開はしていない。それとは少し次元が違う話ではあるが、事業譲渡では、どこから公開するかという線引きはなかなか難しいと考えられ、情報公開についてこの段階で規定することが果たしていいのかどうか気になるところである。
会長	譲渡を段階的に進める中で微妙な問題もあり、具体的に記載するよりは、「誠実な」という言葉に情報公開に関する要望を含めると考えることもできる。
委員	第 4 回審議会でも質問したが、事業譲渡となった場合、姫路市は新しい経営主体とも公私協力方式で大学運営するのか。35 年前の開学時に市は 50 億円と土地を抛出し、10 億円の寄附金が使われたのであり、通常の民間の事業譲渡とはまったく違う。事業譲渡先とのやりとりの全部を公開すべきという訳ではなく、「必要な」情報公開を求めるという趣旨である。また、利害関係者である私立大学の立場を考え、「公正性の確保に努めるよう求める」としている。今の時代、情報公開は当然のことであり、密室で行ってはいけないということを再度強調したい。

事務局	公私協力方式の考え方については、姫路獨協大学を誘致した市民の方、募金された方の熱意というのは、市としても忘れてはならないものであり、そういう思いを持ちながら姫路獨協大学の存続にしっかりと取り組んでいきたいと考えている。必要な情報については議会等にも提出し、きちんと説明を行っていくので、密室で行うというようなことはない。情報公開と公正性に関するご意見については事前に伺っており、「誠実に」というフレーズを 16 行目に追加した。
委員	「粘り強く誠実に」という言葉は、非常に良いように思えるが、具体性に欠けている。次の段階に進むにあたっては、市民・他の大学・卒業生を含めたステークホルダーへの説明責任を果たすことが一番重要である。例えば、「獨協学園と連携の上、ステークホルダーへの説明責任をしっかりと果たしながら、推進していくよう求めます」でどうか。「粘り強く誠実」という言葉は、なくてもいいのではないか。
副会長	譲渡の場合も、「人材育成・教育の質の向上に資する改革・改善」について、姫路市は姫路獨協大学と連携して進める責任があると思う。17 行目で「譲渡に際しては」としてしまうと、「人材育成～改善について」の部分が譲渡に際しては抜けてしまう。また、「粘り強く誠実に」という言葉より、「説明責任をしっかりと果たす」とした方がよいと思う。
委員	ステークホルダーへの説明責任について追記してよいと考える。それにより、「必要な情報公開・公正性の確保」についてもある程度含まれる。16 行目の「獨協学園と連携しながら」の辺りに追加すると収まりがいいのではないか。
委員	説明責任について追加する場所については、「獨協学園と連携しながら」の前がよい。前に追加しなければ、市としての説明責任を果たしたことになる。
委員	この審議会は、公立大学法人化の要望に対する答申書を出すのであり、今後のことについて今は決められないのではないか。
会長	譲渡に関して細かい内容・具体性を入れすぎると、今後の活動に支障をきたす場合もある。これ以上意見が出ないのであれば、この部分の表現について、皆様の意見を反映させる形で、会長及び副会長に一任いただくという案もある。

委員	本質的な部分であるので、ここでまとめていただきたい。
委員	「公立大学法人化はしない」というだけで答申を出すのではなく、その後のことに関しても、言い過ぎない程度に入れる必要がある。「改革・改善について、ステークホルダーへの説明責任をしっかりと果たしながら、獨協学園と連携し推進していくよう求めます」でどうか。
委員	この審議会に参加するにあたり、現場の声と、市民への説明責任の成立という２点を大事にしてきた。ステークホルダーへの説明責任について、まさにこの箇所に入れるのが適切であると思う。「必要な情報公開、公平性の確保」という文言を入れるべきかどうかについては、時間をかけてでも慎重に審議していただきたい。
委員	「ステークホルダーへの説明責任を果たす」という文言を入れて、まとめるとよいと考える。
委員	「ステークホルダーへの説明責任を果たす」という文言を入れることについて、賛成である。あまり個別事情に入らないようにという意味で、16 行目「改善について、」の後ろに入れるのが一番いいのではないと思う。
委員	ステークホルダーという言葉が適切なのか気になっている。「市民の方々」と表記の方が分かりやすいのではないか。文言を入れる場所については、14 行目の「公私協力方式で開学した大学であることを再認識し、責任感を強く持ちつつ」の辺りがいいのではないか。「人材育成・教育の質の向上に資する改革・改善」を受けて、「説明責任を果たす」とすると、獨協学園の教育方針を市が説明することになってしまう。それによって、市もそこにお金を出すと捉えられてしまうのではないかと危惧するので、入れる位置は変えた方がよい。 もう一つ、16 行目の「粘り強く」という言葉は必要あるのか。「獨協学園と連携しながら誠実に推進していく」でいいのではないか。
委員	「ステークホルダー」という表現は、一般市民から見ると分かりにくいと思う。
委員	市民の方だけではなく、周辺の大学や周辺自治体、企業、卒業生の方等、全員に対しての説明責任としなければならない。関係者全員を包括的に表現する言葉がス

	テークホルダーである。今後の再建・譲渡に関しては、ステークホルダーの方々の意見を聞くことが一番大事ではないか。これは公立大学法人化の要望に対する答申であり、細かく書く必要はないが、私はこれまで姫路市が姫路獨協大学にどこまで関与していたのか全く知らない。そういうことがないように、今後の市の在り方をここに書き留めておく必要性はあると思う。
委員	ステークホルダーという言葉がわかりにくいのであれば、その言葉の後に（直接的な利害関係者）という日本語の意味をつけるとよい。
副会長	ステークホルダーは、利害関係者全員を含むイメージである。15 行目から読むと「同大学の存続に向けた再建または譲渡の取組や人材育成・教育の質の向上に資する改革・改善について、ステークホルダー（利害関係者）への説明責任を果たすとともに、獨協大学と連携し誠実に推進していく」という文章でどうか。
委員	「粘り強く」を抜かないでいただきたい。市が関与していたのに、こうなるまで手付かずのような印象を受けたので、35 年間の責任をとって「粘り強く誠実に推進していく」ことを市に求めたい。
会長	修正後の答申書（案）に異議はないか。 （異議なし）
会長	答申書（案）については修正案で決定し、市長に答申したい。以上で本日の議事は終了した。事務局に返す。
委員	4 その他 第 1 回目の審議会前から、市が必要な資料を大学側から収集し、公立大学法人化した場合にどうなるかというビジョンを具体的に示していれば、もう少し違う結果になっていたかもしれないと考えたと残念である。
会長	5 答申 令和 3 年 8 月 27 日付けで本審議会に諮問された、姫路獨協大学の在り方について、審議した結果を別紙の通り答申する。この中に含まれた、姫路市の高等教育・

市長	人材育成への精神を受け取っていただき、今後の参考にさせていただくことを期待する。 私も時間の許す限り陪席に努め、皆様の議論を拝聴した。この難しい問題に関して、この審議会の大任を担い、おまとめいただいた中尾会長、畑副会長、そして非常にご多忙な中、ご参加いただいた委員の皆様方に感謝申し上げます。地域のことを思い、人を作るための大学という観点で答申いただけたと感じている。 姫路市はどういう関与をしていたのだというご意見や、姫路獨協大学が姫路の未来のためにどう在るべきかという非常に建設的なご意見もたくさん頂いたことを胸に、答申を素直に受け止め、議会とも相談しながら、パートナーとして今後どうすべきか考えていきたい。 大学は単なる箱ではなく、人を育てるための重要な場所であり、こういう人材を育てたいというポリシーがあるべきだと思う。獨協学園の関係者にとって、多少耳の痛い話もあったと思う。姫路市の職員においても、収支決算報告や卒業生の動向を聞くだけで公私協力という、形だけのことをしていたことについての忸怩たる反省もあると思う。やはり、人をしっかりと育てていく、地域のためのアカデミアになるという原点に返って、今後の在り方について建設的な意見を出せるように頑張っていきたい。 長きに渡って審議いただき、心から感謝申し上げます。地域で人を育てていくという原点に返って、頑張ってもらいたい。皆様の真摯なご意見を受けとめ、姫路市の行政の長として、責任を持って対応することをここに誓い、私の謝辞とする。
事務局	今後の予定としては、３月議会の総務委員会で、本審議会からの答申を説明する。その後、答申書の内容を尊重しながら、獨協学園への回答となる市の方針を検討し、４月頃、獨協学園に回答する。
会長	このような大役を終えられたことに安堵している。大変感謝申し上げます。 6 閉会